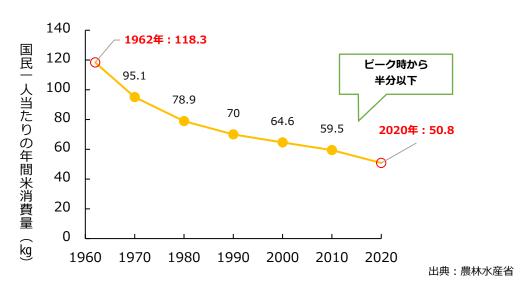
## 【日本のお米の実態】

### ① 一人あたりのお米の年間消費量はピーク時の半分以下

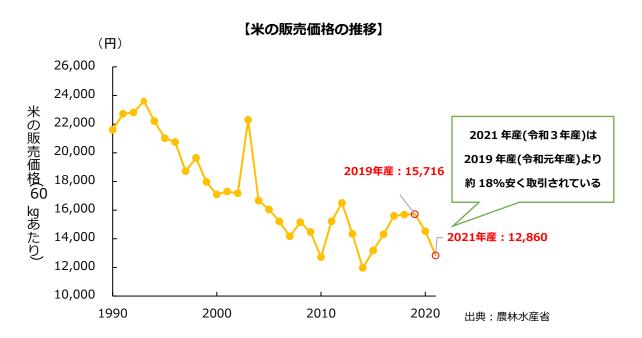
日本人が1年間に消費するお米の量は1962年の118.3キロをピークに減少しており、2020年は50.8キロとピークの時と比べると半分以下になっています。

# 【国民一人当たりの年間米消費量】



# ② コロナ禍が直撃、米価の下落

米の平均取引価格は長期的な下落傾向にあります。特に、2021年産は1俵(60キロ)1万2860円と、新型コロナウイルス感染症の蔓延が本格化する前の19年産に比べ18%安くなっており、この2年の下げ幅は非常に大きくなっています。

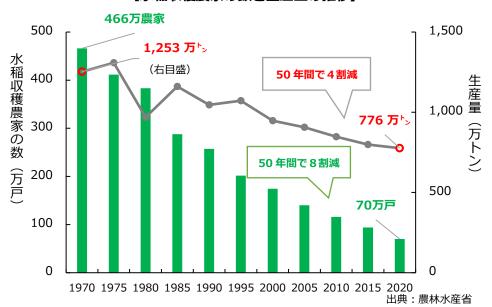


# ③農家数は50年間で8割も減少

水稲収穫農家の数は、1970年の466万戸から減少し続け、2020年には70万戸と50年間で8割以上も減少しています。米の生産量も1970年には1,253万トンありましたが、2020年には776万トンと50年で4割減少しています。

さらに、円安やウクライナ情勢による輸入原料の価格上昇で、お米の生産に必要な肥料等の価格が大幅に上昇しており、米農家の経営はますます厳しい環境になっています。このままではお米を作り続けることが難しくなる心配があります。

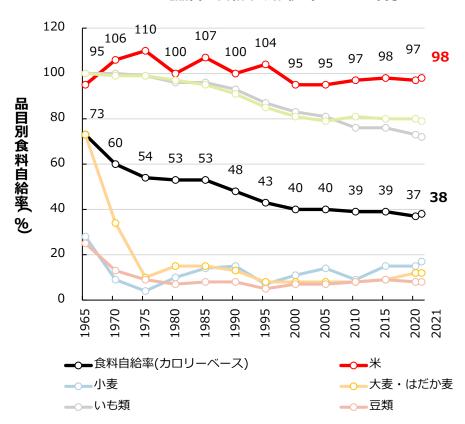
#### 【水稲収穫農家の数と生産量の推移】



# ④ 日本の食料自給率は38パーセント。食料の6割以上を海外からの輸入に依存

カロリーベースの食料自給率は、1965年度の73%から減り続け、2021年度は38%まで低下しています。お米の自給率はほぼ100%ですが、海外依存する穀物の安定輸入が難しくなっていることから、このまま米農家が減少すると食料不足となる心配があります。

# 【品目別自給率の推移(2021年)】



出典:農林水産省